

さらに考えましょう

あなたは、子供が困ったことをした時に、どんな対応をしていますか。
あてはまると思われるものに、○をしましょう。

1	注意をそらす。
2	取り合わない。
3	気持ちが静まるように、抱きしめる。
4	気持ちを聞いてみる。
5	少しでもできたらほめる。
6	納得するまで話して聞かせる。
7	自分のしていることがどういう結果になるかわからせる。
8	良い手本を示す。
9	何が原因なのかを親自身が考えてみる。
10	ルールをつくる。
11	まわりの環境を工夫する。
12	その他

*これらは様々な対応の一部で、対応の全てではありません。

学習を振り返りましょう

自分の中で、分かったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。

教材番号

10-2

「親の力」をまなびあう学習プログラム
「過ぎてしまえば一番幸せ」期（子育て前期）
「クタクタでもワッハッハ」編

年 月 日 ()



寄って話して
自ら気づく
「親の力」をまなびあう学習プログラム

こんな時、どうする？
～子供の気持ちを受け止める～



幼児期は自我の芽生えの時期。自己主張も激しくなり、なんでもかんでも自分でしたがるようになります。行動範囲も広がり、親は気が抜けません。「危ない！」「またやっちゃったの！」「いいかげんにしなさい！」…追いかけて、怒鳴ってばかりで、気がついたらクタクタになっていませんか？

しつけはきちんとしながらも、ゆっくり、ゆったり、余裕を持って…そんな方法を探してみましょう。

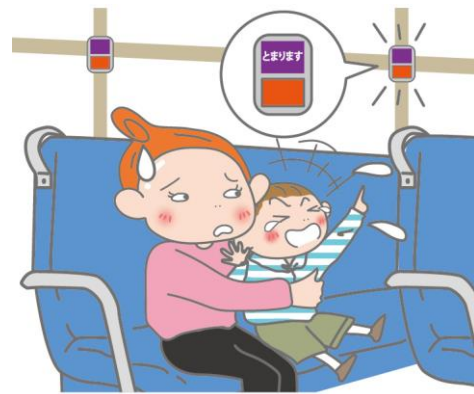
広島県教育委員会

エピソードを読みましょう

お母さんと3歳のサトシくんが、バスに乗っています。

乗り物が大好きなサトシくんは興味津々。中でも、乗降ボタンは、一番のお気に入りです。「押してもいい〜い?」「まだ、降りないからだめよ。降りる時には教えてあげるからね」やさしく言い聞かせるお母さん。

しばらくはおとなしく外の景色を眺めたり、持ってきたミニカーで遊んだりして過ごしていたサトシくんでしたが、だんだんご機嫌ななめに…。ついには、泣き叫び始めました。「ボタン押すんだってば〜」バスの中に大きな声が響き渡ります。お母さんは困ってしまって…。



考えましょう

① あなたは、エピソードを読んでどんなことを感じましたか。

② なぜこのような状況になったと思いますか。

③ あなたなら、このような時にどのような対応をしますか。

考えましょう、出し合ひましょう

子供が困ったことをした時に、どんな対応をすればよいか考えてみましょう。

困ったこと	原因 【どうしてそうなったのかな】	対応 【どうしたらいいのかな】
例：ぐずる	例：ねむい	例：十分に昼寝をさせる

参考資料 「日ごろの生活であること」

